

【第25号】令和4年(2022年)3月24日
発行：鹿児島県歯科医師連盟 〒892-0841 鹿児島市昭国町13番15号 発行人：堀川清一 編集：連盟広報委員会
TEL (099) 805-0334 FAX (099) 227-0022 メールアドレス：kdpf@po5.synapse.ne.jp
鹿児島県歯科医師連盟ホームページ http://www.kashiren.jp/



就任のご挨拶と連盟の進むべき道

会員の先生方には平素から鹿児島県歯科医師連盟にご理解とご協力をいただいていることに感謝申し上げます。

私、令和3年6月26日に開催されました評議員会において、会長の重責を担うことになりました。8年間、理事長を務めさせていただいた経験をもとに、竹之下前会長を範として、これまで以上に会員の皆様のお役に立てるよう努力して参りたいと思っております。幸いこの8年間で、ともに連盟会務を執行してきた多くの役員に残っていただき、さらには経験豊かな新しい先生方も新執行部に入っていただけることになり、心強く思っております。

いまでもなく、連盟の目標は歯科医師の業権の確立発展を図るとともに、車の両輪として鹿児島県歯科医師会の事業と目的を達成するため必要な政治活動を行うことです。竹之下前会長の強力なリーダーシップのもと、この8年で国政選挙、地方選挙での活動はもとより、

就任のご挨拶と連盟の進むべき道

・制度や会計の徹底的な調査と改革
・組織力の強化
・かごしま歯と口腔の健康づくり県民条例制 定への協力
・歯科医師会館建設にあたっての基金の確保
・保険改定への提言
・新型コロナウイルス感染症における補助金の要請
など様々な活動を行ってきました。これからもこのような活動を止めることなく推進していかなくてはなりません。具体的には、関係各位の努力で平成30年度に厚労省内の歯科口腔保健推進室が訓令室から省令室に昇格したように、歯科の地位の向上を図り、医療における歯科の重要性を広く認識してもらうことが重要であると考えています。また、令和3年9月14日付で口腔ケア、医療介護連携、データヘルス改革担当として、これまでの大きな懸案であった歯科担当の初めての大臣官房審議官が誕生しました。このことも歯科医療政策の推進については大きな1歩だと思っています。

さて、令和3年12月19日に本年4月からの改定率が発表され、何とか1:1.0:3の比率は堅持されましたが、金バラ問題、初再診料の格差の是正など問題は山積しています。その他にも感染症対策への手当、個

鹿児島県歯科医師連盟市郡支部長 令和3年7月1日～令和5年6月30日		
市郡支部名	氏	名
鹿児島市	平田	哲也
指宿市	馬渡成太郎	
南薩	松崎	貴起
枕崎市	川畑	正樹
日置地区	前田	敏光
薩摩川内市	林	廣昭
薩摩郡	川越	佳昭
出水郡	杉山	光喜
伊佐市	坂口	浩一
始良地区	竹ノ内	哲
曾於郡	西国領	正
肝付	吉留	哲雄
鹿屋市	西之原	正明
熊毛郡	鎌田	伸樹
大島郡	町田	慶太

鹿児島県歯科医師連盟広報委員会 令和3年7月1日～令和5年6月30日		
委員	高竿	寛実
委員	米澤	厚士
委員	田島	宏臣

鹿児島県歯科医師連盟・日本歯科医師連盟は、会員の皆様のご協力により政治に対する発言力を強め、歯科界の発展の為に活動しています。
趣旨をご理解の上、今後ともご協力をお願いいたします。

鹿児島県歯科医師連盟役員 令和3年7月1日～令和5年6月30日		
役職名	氏	名
会長	堀川	清一
副会長	山内	和久
副会長	平田	哲也
理事長	増山	智美
副理事長(運営)	前田	裕一
副理事長(広報)	迫中	友博
副理事長(組織)	谷口	浩太郎
副理事長(広報)	要	光
副理事長(運営)	黒木	敦朗
副理事長(組織)	濱崎	
理事(組織)	池田	敏雄
理事(組織)	山内	浩人
理事(運営)	栄	千登美
理事(運営)	奥	淳一
理事(運営)	門松	秀司
理事(組織)	木通	敏文
理事(組織)	川畑	浩
理事(運営)	玉井	政孝
理事(組織)	小脇	淳智郎
理事(運営)	平川	俊洋
監事	竹之下	伸一
監事	塚塚	一徳

別指導の選定方法などは解決していかなくてはならない懸案事項として日歯連も動いているところですが、鹿児島県歯科医師連盟としても日歯連と共同歩調をとる形で、参院選、衆院選その他の選挙協力、会員拡大
・本会の車の両輪としての会員、県民への貢献
などがこれからの重要な課題となると思われます。
特に、令和4年7月に行われる第26回参議院議員通常選挙は、これからの変革期を乗り切るための非常に重要な選挙になります。職域代表としての発言力をもった人物が歯科界、ひいては国民のために働けるような結果にするよう会員の先生方のご支援を心からお願ひしたいと思います。
日本歯科医師連盟においては、本県連盟は大きなカギを握っている連盟であると認識されています。その中で、会員の先生方のお役に立てるような活動をするためにも組織の拡大を含めて、これまで以上のご理解とご協力を切に願ひしてご挨拶いたします。

「かつてない困難」を「かつてない飛躍」の機会に

令和4年度からの診療報酬改定も確定しました。コロナ禍でもクスターの発生を抑えてきた歯科の感染対策対コストに対し、特に初再診料の増額を求めて参りました。そして全医療費の伸びが大幅に抑制される中、初診が261点から264点、再診が53点から56点とそれぞれ3点のアップとなりました。医科歯科の格差は、まだまだ初診で24点、再診で17点となりますが、今後早期に格差が是正されるよう全力で取り組んで参ります。

疾病予防の柱に歯科を据える

今年からは「団塊の世代」が後期高齢者となり始め医療費が急増します。65歳未満の一人当たりの年間医療費が19万円であるのに対し75歳以上の方は93万円。数年前の日経新聞での10000人の医師へのアンケートでは、「このままでは国民皆保険制度は崩壊する」と考える医師が半数に上っているとの衝撃的な報道もありました。

わが国の誇る国民皆保険制度を守るためには、「なるべく病気になるようにする」になっても重症化しないようにする」ための疾病予防・健康政策に国の施策の重心を移していく以外に方策はありません。今こそ、その柱として全身の健康につながる口腔の健康を国の健康政策の柱に位置付ける絶好の機会となりました。

松下幸之助氏は「かつてない困難からかつてない改革が生まれ、かつてない改革からかつてない飛躍が生まれる」と述べていました。今歯科界は「かつてない困難に直面していますが、これを「かつてない飛躍」への機会にしていける決意です。

「国民皆歯科健診」を突破口に

昨年の総選挙の自由民主党の政権公約に、初めて「生涯を通じた歯科健診の充実（国民皆歯科健診）を進めます」と記されました。高校まで義務付けている歯科健診を、年一回は国民が受診することで疾病の予防と国民の健康寿命の延伸につなげ、結果として国民医療費を適正化して国民皆保険制度の維持を図ろうとするものです。

近々自民党内に「国民皆歯科健診実現のための検討委員会(仮称)」が設置され、課題の整理や制度設計などの検討が開始されるということです。

「健康は健口から」。「国民皆歯科健診」は口腔の健康を体の健康につなげるという国の健康政策の突破口になるはずで

誰にも負けない熱意で

私は、松下幸之助氏から「リーダーにとって最も大事なことは、誰よりも強い熱意を持つこと」と教えられました。私は歯科医師ではありませんが、歯科を日本の健康政策の真ん中にすえ、誰もが天寿ギリギリまで健康でいられる国をつくりたいという熱意は、誰にも負けないつもりです。今後も歯科界の明日を拓くことで、日本の明るい未来を築いて参ります。

鹿児島県歯科医師連盟の益々のご発展と皆さまのご健勝を心よりご祈念申し上げます。

山田宏 各種情報

◆公式YouTube
◇公式Twitter
◆デンタルマガジン
◇ネットサポーターズクラブ
◆成人式動画

毎週土曜日17時15分に様々な話題に対する山田宏の考えを配信しています。
山田宏の考えをいち早くお届けしております。
歯科界の皆様へ山田宏の最新の活動報告をしています。
毎週月曜日、山田宏の最新情報を皆様にお伝えします。
277万回視聴頂いている、杉並区長時代の成人式でのお話します。

公式 YouTube

公式 Twitter

デンタルマガジン

ネットサポーターズクラブ

成人式動画

「かつてない困難」を「かつてない飛躍」の機会に

未だコロナの収束が見通せない中、感染リスクの高い歯科医療の場で、細心の注意のもと、県民の口腔の健康維持という崇高な使命を果たしておられます。心から敬意と感謝を申し上げます。

私も日本歯科医師連盟顧問として、これまで歯科に対するコロナ対策支援の確保やご相談やご要望に適切にお応えして参りましたが、今後とも体の健康に直結する大切な歯科医療を支えるため先頭に立って頑張つて参ります。

今だからこそ大事な口腔の健康

今、歯科界は感染症の未曾有の蔓延という「かつてない困難」に直面しています。一方、国際的権威ある学術誌では「歯周病のある人のコロナ重症化の割合は、ない人の6倍」(Journal of Clinical Periodontology 01 February 2021)、「歯周病の症状がある人は、感染しやすい」(Journal of Periodontology 04 August 2021)など、感染や重症化と歯周病との関連を指摘する論文が多く出始め、コロナの今だからこそ口腔管理が重要であり、感染予防の鍵であることを国民に認識してもらう機会でもあります。

参議院議員
山田 宏

施策方針

春色の候、鹿児島県歯科医師連盟の会員の先生方におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。昨年の夏の衆議院選挙の際には連盟の役員の方、事務局の皆様のご協力のもと、鹿児島県内の多くの診療所を訪問させていただきました。

お忙しい中、グロープをしながら対応してくださる白衣姿の先生方を拝見すると、私にも緊張感が伝わり歯科診療の現場の厳しさを改めて実感します。

私自身、沖縄県歯科医師会の役員の頃から、九州の先生方との交流も深く、また母校、福岡歯科大学同窓の先生方も九州出身者が多く、鹿児島県を身近に思うところがあります。何より日本国の南の鹿児島県と沖縄県のつながりでしょう。

さて、未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症の中、ソーシャルディスタンスや黙食、テレワークの推進など、新しい生活様式も確立され、街を歩く人たちは皆マスクを着用するなど、この3年で街中の景色が様変わりしました。

感染の原因は会食中の飛まつと問題視される中、私たち歯科医師はマスクを外した患者さんの口腔内でタービンを回し続けております。歯科医師だけではなく、歯科衛生士や歯科技工士も感染リスクと隣り合わせの中、患者さんと真摯に向き合う、それが私たち歯科医療に従事しているものの使命だと強く感じております。クラスターを起こさないため、臨床の現場での細心の注意、様々な衛生用品に大きなコス



参議院議員
比嘉 奈津美

トをかけながら最善の感染予防体制で診療を行うという努力は並大抵のことではございません。その結果、全国約68,000の歯科医院でクラスター発生件数がゼロという実績は大変誇らしく思っております。

医療界にとつては大変困難な状況ではありますが、口腔内の健康が感染症を含むあらゆる疾患の予防、また重症化の抑制につながる、国民の健康寿命の延伸となることを周知徹底していくチャンスでもあります。

知人がコロナの感染で味覚嗅覚異常をきたし、不安な毎日だったと聞きました。香りが無い風邪の症状がずっと続くという大変な苦痛だったそうです。香りは咀嚼することで口腔内から鼻腔へ空気が伝わり嗅細胞がそれを感じ、豊かな味わいを楽しむことができます。食物を粉砕することで舌の味蕾で多様な味わいを得るということです。

地球上で火を使い食する唯一の生命体人類の生活の豊かさを我々歯科医師が担っているのです。歯科医療の肉体と精神における重要性を大義とし、現場の先生方が安心して診療を行えるよう、国政の場で歯科医師の一人として取り組んで参ります。

最後になりますが、鹿児島県歯科医師連盟のますますのご発展、そして会員の先生方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

堀川清一会長はじめ鹿児島県歯科医師連盟の皆様には、平素より歯科医療の提供及び口腔衛生の普及啓発に御尽力いたくださるとともに、新型コロナウイルス大規模接種会場の運営など本県の各種事業・施策に御協力いただき、深く感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルスの感染リスクが高い環境の中、感染防止対策の徹底に努めながら診療にあたられ、歯科口腔保健の向上に寄与されていることに、心から敬意を表します。

さらに、鹿児島県歯科医師会が令和元年5月に県庁内に開設された県口腔保健支援センターにおいては、歯科医師及び歯科衛生士が常勤され、歯科医療関係者をはじめ市町村等に専門的な助言を行っていたにいたるほか、歯科診療所のない離島や通院が困難な障害者、難病患者等を対象とした巡回歯科診療に御尽力いただき、重ねて感謝申し上げます。

加えて、同歯科医師会によって運営されている本県所有の歯科巡回診療車につきましては、新型コロナウイルス感染症への対応を強化した車両に近く更新することとしており、県民の皆様は歯科口腔保健の向上のため、より一層の御協力と御活用をお願い申し上げます。

さて、私は、知事就任以来、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症をはじめ、豪雨や台風による災害、サツマイモ基腐病、高病原性鳥インフルエンザ、軽石の大量漂着など、様々な危機事象や緊急課題に対し、全力を挙げて取り組んでまいりました。

今後、まずは、新型コロナウイルス感染



鹿児島県知事
塩田 康一

症への対応を最優先にして、感染防止対策をしっかりと講じつつ、検査・医療提供体制の確保・拡充に取り組み、県民の皆様は安心・安全と社会経済活動の両立が図られるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

また、新たに策定する行財政運営指針を踏まえた行財政改革を着実に進めつつ、持続可能な開発目標SDGsの理念も踏まえ、本県の基幹産業である農林水産業及び観光関連産業をはじめ、製造業等の「稼ぐ力」の向上に資する施策やデジタルテクノロジーを活用した県民の暮らしの質の向上に資する施策、脱炭素社会の実現に向けた施策、移住・交流の促進に資する施策などを積極的に推進してまいります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の収束後も見据えながら、「未来を拓く人づくり」、「暮らしやすい社会づくり」、「活力ある産業づくり」に積極的に取り組み、これらの好循環を生み出すことにより、時代の潮流に的的確に対応できる社会、安心・安全で持続可能な地域社会、そして高齢者や女性、障害者、子ども、外国人など、あらゆる方々が生き生きと活躍できる、誰一人取り残さない社会の構築を目指してまいります。

私は、県民の声がしっかりと反映される県政にしたい。県民が主役の、県民の目線に立つた行政を実現したい。各市町村の意見を聞きながら連携を進めていきたい、ということをお願い申し上げます。

終わりに、鹿児島県歯科医師連盟の今後ますますの御発展と会員の皆様は御健勝・御活躍を祈念申し上げます。

理事長就任のご挨拶



鹿児島県歯科医師連盟
理事長

増山 智美

会員の皆様におかれましては、日頃より鹿児島県歯科医師連盟の活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。また、先の衆議院選においても格段のご配慮ありがとうございました。

昨年、6月に堀川新会長以下、新執行部発足のもと、理事長を拝命する事になりました。前竹之下会長時代には社会保険担当として副理事長を務めて参りましたが、この度の理事長就任の重責に身の引き締まる思いで日々の会務に当たっている今日この頃です。

日頃より尊敬する先輩が「会の仕事は何をするかも大事だが、誰とするかが大事」と言われた事を最近かみしめる歳になってきました。同業者の集まりだと言っても皆が同じ方向を向いているとは限りません。また温度差も違います。幸いに、これまで県歯会の仕事でも連盟の仕事でも良い仲間、可愛い後輩、尊敬できる先輩方に囲まれ、助けられながらなんとかやってこられました。これからもご助言をいただきながら会務に励む所存です。

さて、連盟の仕事は、「歯科医師並びにコデンタルスタッフがいかに働きやすい環境を作るか」それを実現するために政治的な活動を中心に行われています。前竹之下会長はその強力な人脈と信望で日本歯科医師連盟でも一目置かれる活躍をされており、鹿児島県歯科医師連盟はそれなりの期待を持たれている団体であると自負しています。しかしながら、諸事情により

組織率は咬牙切歯の思いをしておりました。歯科医療政策の推進には法整備をはじめとして政治的アプローチは欠かせません。そのためにはどうしてもマンパワーが必要とされることは言うまでもありません。歯科医師一人一人が自分たちのために、また患者さんやスタッフのために、自ら声を上げなければ改革は成し遂げられません。その目的とするところは鹿児島県歯科医師会と同じであり、車の両輪の如くバランスよく舵を取っていくことが必要かと思われま。

幸いここ数年で賛同を得て協力していたける先生方も徐々に増え、組織率もなんと60%を超えることができました。まだまだ不十分な数字であることは確かですが、さらなる会員の拡大のために必要な情報発信を続けて参ります。

今年は保険改定の年ですが、感染症対策や金銀パラジウム合金の逆輸入問題しかり、また初再診料の医科との格差等、ここ数年連盟で対策を議論検討してきたことがそれなりの結果を伴って発表されることでしょう。

そこには学術的な根拠とは別に、限られた財源の中でやり繰りしなければならない現実があります。連盟は継続的にこれらの問題解決にあたらなければならぬと思います。

一方、先の衆議院選で岸田内閣は「国民皆歯科健診」を自民党公約に盛り込みました。歯科を中心に国民の健康を目指しひいては総医療費の適正化を目指すと言う試みです。これを実現させるためにもまず7月の参議院選で会員の皆様にご支援をいただき一人でも多くの職域代表に活躍の場を作っていただけると幸いです。これからも連盟の活動にご理解とご支援をいただけるよう精励して参りますので、堀川新執行部をよろしくお願い申し上げます。

さくら島



鹿児島県歯科医師会
会長

伊地知 博史

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝の事と存じます。

COVID-19と向き合つて3年目に入り、また変異株の出現でまだまだ先が見通せない状況ですが、今年10月には、鹿児島県歯科医師会担当で九州歯科学大会が開催される予定です。ブクチン接種、治療薬の開発が進み、コロナウイルスと共存した普通の社会生活が戻ってくることを心より願っています。

さて、2020年国勢調査の確定値によりますと、鹿児島県の65歳以上の割合高齢化率は32.5%で1920年（大正9年）の調査開始以来、初めて3割を超え、高齢化が進んでいる実態が浮き彫りになりました。また、厚生労働省は「健康寿命が2019年は男性72.68歳、女性75.38歳だったと発表しました。鹿児島県は男性が73.40歳、女性が76.23歳で、それぞれ前回から1.08歳、0.72歳伸び、全国平均を上回りました。日本は、世界に類を見ない超高齢社会に突入していつております。2019年は平均寿命との差が男性8.73歳、女性12.07歳となり、初公表の10年以降、縮小傾向が続いています。平均寿命との差をできるだけ短くすることを目指していかねばなりません。そのためには、すべてのライフステージにおける「歯と口腔の健康づくり」を通して健康寿命の延伸に取り組む必要があります。

そのような中、昨年の総選挙では、自民党の公約に「生涯を通じて歯科健診の充実（国民皆歯科健診を進めます）」と初めて「歯科」が記されました。また、日本歯科医師連盟の組織代表である山田宏参議院議員を事務局長とする「国民皆歯科健診実現議員連盟」も発足して

おります。「生涯を通じて切れ目のない歯科健診」の推進は、歯科界の活性化に向けた重要課題だと思います。国民や政府に口腔の健康の重要性が認識されつつあることを追い風に、超高齢社会においても国民の歯科医療が円滑に行われる環境整備に向けて進んでいってほしいと思います。

また、今回の診療報酬改定においては、コロナ対策で財源が多く費やされ財政面からのハードルが高かったにも関わらず、失ったものもあるかもしれませんが、初再診料が3点増となり、医科歯科格差の解消に少し近づいていっています。今年は、日本における公的医療保険制度の中核をなす法律である健康保険法が公布された1922年からちょうど100年目になります。世界に誇れる国民皆保険制度の下で、我々は日々歯科医療に取り組んでおります。医療が国の法律、国策の下で行われている現在、国会議員の力が非常に必要であり、大切なものとなります。

昨年、参議院比例代表候補の歯科医である比嘉奈津美先生が繰り上げ当選され、山田宏参議院議員が委員長である参議院厚生労働委員会の委員に就任されました。今年の夏には参議院議員選挙がありますが、日本歯科医師連盟の組織代表として山田宏参議院議員が選挙に臨まれます。歯科への正当な評価の確保に向けて、是非上位当選を願うものです。鹿児島におきましては過去の経緯もあつて、公営社団法人たる鹿児島県歯科医師会が選挙支援などの政治活動が制限されているため、鹿児島県歯科医師連盟とは厳に峻別しておりますが、常に車の両輪という緊密な関係を保つて、車が真っ直ぐに進むように組織力の更なる拡大に協力していかなければなりません。堀川会長の強いリーダーシップで組織力のますますの拡大を図り、「医政なくして医療なしのもと」固結して連盟活動を強力に執行して頂くようお願い致しますとともに、鹿児島県歯科医師連盟のますますのご発展を祈念致します。